

カルメル霊性センター（月刊）

1999年（平成11）2月号

99.2

霊性センターニュース

130号



エデット・シュタイン（4）

霊性センターカルメル

（青年ミサ99）

断層（134）

ヘンリー・ナーウエンの「旅路の糧」（9）

聖別：奉獻と洗礼（4）

フォコラーレニュースより

聖堂音楽

詩

諸々の企画のご紹介

お願い

チブリアノ・ボンタッキョ

(カルメル会司祭)

1933年の春、エディット・シュタインはミュンスタ(Münster)の教育学の研究所で講師をしていましたが、ユダヤ人であるという理由で、ナチスによってその活動を禁止されました。彼女はこのことをカルメルに入会したいという長年の念願が叶えられる時が来たことの印として受け止めました。祈りの中でそれを確信する事が出来たので、この年の10月14日にケルンのカルメルの修道院に入る事になりました。

高齢のお母さんとのお別れは特につらいものでした。また、その家族の中で彼女のカルメルの入会が同胞からの逃避にしか思えない者もいました。このとらえ方に対してエディット・シュタインは、或る友達への手紙の中で次のように答えています。

「カルメルに入るのは、家族や同胞の人達にとって決して失われた者になるのではなく、かえって深い意味でもっと身近な存在となります。何故ならカルメルの召命は、皆の為に神の前に止どまる事だからです」。

お母さんとの別れは、彼女の心に大変深い悲しみを残していましたが、入会の日に「深い平和のうちに神の家の門をまたぐ事が出来ました」と言っています。

入会の動機は、人々の救いの為に「キリストの受難に参加する」事でした。十字架のテレジア・ベネディクタという修道名を選んだのもその為でした。42才で、しかも自立心の強い彼女にとって、もう一度子供に戻って総てに於いて人の判断に従うことは小さな犠牲ではなかった筈です。また、他の修道女達と同様に求められている様様の手仕事も、大変不器用な彼女にとって大きな修業の場となっていた筈です。共同生活の中でも姉妹方との係わりの中に於いてもお捧げしなければならないものは沢山あったようです。「カルメルの生活の要求に応じて行く為に自分の好みを犠牲にすることはキリストの十字架に参加することです」。「この時こそ本当の自由を体験します」。「ずっと前から来るべき場所にとうとう来る事が出来ました」と。この様に彼女はカルメルの生活の要求を喜んで受け入れていました。この時の手紙の中でもその喜びと感謝を何度も表しています。

カルメルの生活の中で祈る時間が沢山与えられています。テレジア・ベネディクタ姉妹はその時間を忠実に守っていたことは勿論のことですが、その他にも沢山祈っていました。その祈りについて次の証言があります。「皆より早く起きて自分の部屋でひざまづき、手を広げて祈っていました」、「日曜日や休日に御聖体の前で長い時間を過ごしていました」、「静修日や黙想会の時に、歌隊所の御聖体に近い場所で長い時間に亘って祈っていました」と。

その祈りの中で彼女は、家族や同胞の人達の苦難を何時も思い出していたと思います。また、自分もそのうち彼等と一緒に、また、彼等の為に自分自身をお捧げするよ
うに呼ばれていることを心の中で感じるようになったでしょう。



Ich, Schwester Teresa
meine Profp der ein
verspreche Gehorsam
unserem Herrn,

le
de
Voll,
Maria
ndem
christi-

der Unbeschulten Karmeliten mit
dige Mutter Priorin, sowie Ihren Nachfolgerinnen,
nach der ursprünglichen Regel des genannten Or-
dens und unsere Satzungen bis zum Tode:
omnis populi eius, in aeternum domus Domini.

Karmel Köln-Lindenthal

21. April 1938.

お詫び

先月号の1ページ目、チプリアノ神父様の『エディット・シュタイン』3に多くの誤りがございましたので、お詫びして訂正させていただきます。

『エディット・シュタイン』3

— 受洗からカルメル会入会まで —

チプリアノ・ボンタッキョ

(カルメル会司祭)

1921年の夏のイエスの聖テレジアの自叙伝との出会いは、エディット・シュタインにとって摂理的な出来事でした。その時まで彼女を悩ませていた全ての疑問は一気に追い払われてしまいました。一体彼女の心に何が起こったのでしょうか。このことについて聞かれる度に、彼女は「私の秘密は私だけのものです」と言う答えしか与えませんでした。でも、信仰に導く恵みについて彼女の書いた言葉をもとにして、その晩（聖テレジアの自叙伝を読んだその晩）にエディット・シュタインの心に起こったことを垣間見ることが出来ると思います。イエスの聖テレジアが出会っていた活ける神を自分の中にも強く体験するようになり、その活ける神が自分の中に突入してこられたような神秘的体験に恵まれたようです。

エディット・シュタインは、信仰の恵みと一緒にカルメル会の召命も与えられたようでしたが、指導司祭の勧めに従って入会を見送ることにしました。そこで、さしあたってSpeyerという町の「教師養成所」と「女子高等学校」とで教師として就任することになりました（1923～1931）。その後は、一年だけでしたが、Münsterにある「ドイツ教育研究所」に教師として勤めました。

彼女は、教職に従事しながら社会的に活動を続け、また、翻訳や著作、そして、講師として方々に出掛けなければならないこともあって、多忙な毎日を送っていたようです。多くのことに忙殺されていた彼女が日々の課題を克服することが出来たのは、その豊かな才能のおかげでもあったでしょうが、彼女自身の言葉によれば、祈りから力を得ていたからです。

「重要なのは、まず……神と交わることの出来る時を持つことです」。「忙しければ、なお、そういう祈りの時を持つ必要がある……このことをするには、別に教会に行く必要もなく、どこでも出来ることです」。彼女はSpeyerのドミニコ会の聖堂でシスター達の祈りに参加するだけではなく、個人的にも長い時間にわたって沈黙の祈りに専念していました。そして、1928年からベネディクト会のボイロンの大修道院を紹介されてから、大きな祝日、また聖週間やクリスマスの休みにその近くのペンシ

ジョンに宿をとりながら、修道者たちの荘厳な典礼に参加していました。この大修道院の教会は、彼女の「霊的故郷」となり、ここでも長い時間を沈黙の祈りのうちに過ごしていました。

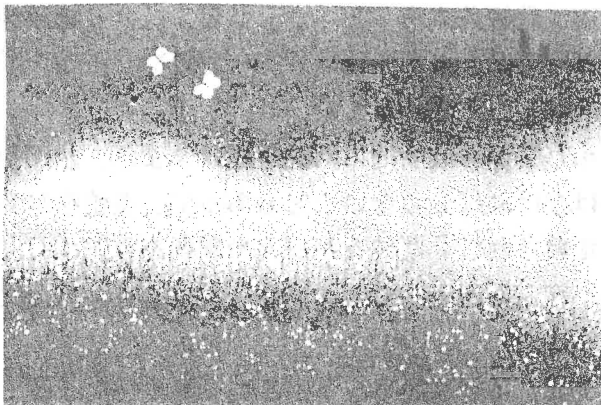
当時、この大修道院にでいりしていた人の中に、個人の祈りの価値を理解していない人もいたようです。そこで「教会の祈り」というエッセイの中で彼女は、彼らに反論して次のように書いています。「個人の祈りも教会の祈りです。……すべての真の祈りは教会に満ちておられる聖霊の“言葉に表せないうめき”（口書8・26）です。……信者一人一人を通して教会は祈っています。沈黙の祈りを通して人の霊的生活が養われ、高められて行くのです。……このように養われ、高められた人の祈りこそ教会の最も深い祈りとなります」と。

これだけ祈っている人は、使徒的熱意に燃えてゆくのは当然のことでしょう。真の祈りは、祈る人の中に謙虚な心を起こすと共に使徒的な熱意を燃えさせたものです。

エディット・シュタインの中にも祈りはこういう心を起こしました。彼女のすることは全ての人々を神様の方へ導くためでした。

「人が神と親しさに引き入れられるにつれて、一層彼は自分の内から外へと、即ち、この世の人達の中へと出て行くようになり、神の命を彼らにもたらしようになる筈です」と。

エディット・シュタインは自分を「神の聖手の中の道具に過ぎない」と見て、「毎日出会う人々を神の所へ導きたい」といっています。



霊性センターカルメル

1. 聖書深読黙想会

(1)上野毛聖テレジア修道院 (黙想) (1999年黙想会年間スケジュールのページを
ごらんください)。

(2)宇治聖テレジア修道院 (黙想) (1999年黙想会年間スケジュールのページを
ごらんください)。

(3)名古屋教区聖書深読会

1. 日本カトリック研究センター

〒466-0834 名古屋市昭和区広路町隼人30 TEL.052-831-5037

FAX.052-831-5317

日時：4月10日(土) 夕食～11日(日) 昼食

2. 宇治テレジア修道院 (黙想)

〒611-0002 宇治市木幡御蔵山39-12

日時：10月2日(土) 夕食～3日(日) 昼食

1.2. いずれも

指導：奥村一郎師 (カルメル会士)

連絡：小林 厚 〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115

* 定員 21名

* 申込・締切り 実施日2週間前

(4)大分聖テレジア修道院 (黙想)

指導：奥村一郎師

日時：10月27日(水) 夕食～28日(木) 昼食

連絡：富田恵子 〒870-1125 大分市上宗方1803-3 TEL.0975-41-4012

(5)聖書深読箇所 (通信) 原則として月の第2日曜日

1/10 主の洗礼 マタ 3:13-17

2/14 年間第6主日 マタ 5:17-37

3/14 四旬節第4主日 ヨハ 9:1-41

4/11 復活節第2主日 ヨハ 20:19-31

5/9 復活節第6主日 ヨハ 14:15-21

6/13 年間第11主日 マタ 9:36-10:8

7/11 年間第15主日 マタ 13:1-23

9/12 年間第24主日 マタ 18:21-35

10/10 年間第28主日 マタ 22:1-14

11/14 年間第33主日 マタ 25:14-30

(6)通信聖書深読

朝日カルチャーセンター（東京新宿）が通信講座のなかに『聖書深読』を組み入れてくださることになりました。ご希望の方は下記にご連絡ください。

連絡：戸張由美子 〒163-0201東京都新宿区住友ビル 私書箱22

[註]「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎）。オリエンス宗教研究所出版。参加者は持参下い。定価 1000円。下記に直接ご注文下さい。尚、3冊以上注文されれば、20%引きになります。

記

オリエンス宗教研究所

〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 TEL.03-3322-7601

FAX.03-3325-5322

2. 聖書と念祷の集い No.6

星野正道神父（毎月1回）

- ・日 時：2月20日（土）3：30～
- ・場 所：上野毛教会・信徒会館 26号室
- ・テキスト：神との親しさ（2）『キリストの対神徳』伊達カルメル会訳，聖母文庫 500円。上野毛教会売店にあります。
- ・急に変更になることもありますので数回ご出席になってみてその後、継続しようとお思いになる方は連絡網に入っただければと思います。
連絡網に入っいらっしゃらない方は、土曜日の午前9時30分から11時30分間に修道院の受付に 電話 をして変更がないのをたしかめてからお出かけください。 TEL.03-3704-2171 カルメル会修道院受付 久岡
- ・その他、夏休み、冬休み、春休み などのお知らせはこの霊性センターニュースに掲載いたします。
- ・なお、この集いは前半約40分の講話と後半約45分の沈黙の祈りで構成されています。
- ・また、この集い終了後、5時30分から6時まで、全世界の人々の為に祈る神の民の祈り「教会の祈り」、
- ・私たち一人一人を母の愛をもって見守る聖母マリアへの祈り、「サルヴェレジーナ」
- ・主の受肉と十字架を通しての復活を賛える「お告げの祈り」、そして
- ・希望者には主御自身の御体をいただく聖体拝領が続きます。これらにもご自由にご参加ください。

そして大都会の中のオアシスをこの修道院で探り当てましょう。

3. はじめての沈黙の祈り

今回はじめて沈黙の祈りをはじめてみようと思っいらっしゃるかたの

コースです。音楽を使ったり、体や息を意識しながらやさしく自分のところの深みに降りて行きましょう

日時：毎月第一水曜日、午後7時30分～から約一時間

2月3日(水)

ヘルパー：星野 正道 (カルメル会司祭)

嶋崎神学生、松田神学生 (カルメル会)

会 費：なし 自由献金

場 所：カトリック上野毛教会聖堂

東急 大井町線 上野毛駅下車5分

158-0093世田谷区上野毛2-14-25 男子カルメル会修道院

(お通夜などで聖堂が使えない時には信徒会館でいたします。貼り紙に目を留めてください)

4. 祈りの集い

時間に追われる毎日…。月に一度、あなたも思い煩いをそっと脇に置き、共に沈黙に耳を傾け、魂の深呼吸をしませんか。

担当：九里 彰神父

日時：毎月1回 午後7時30分～9時

2月17日、3月24日各水曜日

場所：信徒会館1階ホール

(葬儀等で使えない場合は、2階の部屋)

内容：聖歌、沈黙の祈り、み言葉、小講話等があります。

(何の準備もいりません)

5

T . T . クラブ

～10代・20代の青年たちの集い～

カルメル会で10代・20代の青年たちの集い『T. T. クラブ』を始めました。このクラブの特徴は現代社会のムーブメントを題材に、お互いにの話を聞く、自分の意見を話す、また伝わってくるものを感じ取る、自分の感性を表現するということを中心に置きます。その中で、お互いの神様から頂いた“宝”を発見し、よりよく人々と共に生きていく可能性をさがしていければと願っています。

ぜひ、参加してみてください。わたしどもスタッフはここからお待ちしております

います。

第13回 1月16日(土) 「成人」

第14回 1月30日(土) 「1999年はどんな年！」

第15回 2月13日(土) 「寒い中での心暖まる話し」

第16回 2月27日(土) 「さあ、イースターの準備だ！」

第17回 3月6日(土) 「春一番の風」

※ 第18回 3月27日(土) 「LAST SUPPER」

※ 『靈性センターニュース 1月号』にて
3月21日(土)と記述されていましたが
誤りでした。ご迷惑をお掛けしました。

* 時間 いずれもP.M.7:00からP.M.9:00ま

* 対象 10代・20代の青年たち

* スタッフ カルメル会士

* 場所 カトリック上野毛教会 信徒会館 1F

* プログラム

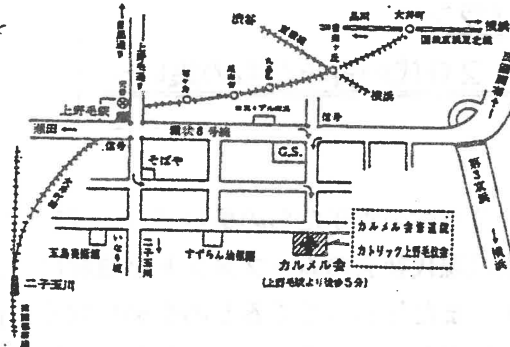
7:00-7:20 はじめの集い
(みんなで賛美歌を歌うetc.)

7:20-8:20 分かち合いの時間
分かち合いによりお互いの宝を発見する時間

8:30-8:50 祈りの時間：賛美の祈り・沈黙の祈り・祝福。

9:00 解散

〒1580-0093 世田谷区上野毛2-14-25 TEL 03-37-4-2171



修道生活、司祭生活を考える若者の集い

NO. 12

この修道生活、司祭生活を考える若者の集いも皆さんのご協力で小さなあゆみをつづけております。この集いは特定の修道会へのおさそいの集まりではありません。教会生活を送って行く中で今までとはちがう生き方もあるのではないかと、思っている若者がひとりぼっちでひざをかかえているのはよくない、同じように感じている仲間と出会い、ともに祈りながらあゆんで行けたら何かが見えてくるのではないかと、ということで始めました。もし君がそんなひとりだったらぜひ来て見ませんか。

*日時 4月25日(日) 10時から16時まで、昼食は各自お持ちください。

*対象 30才くらいまでの独身男女青年

*スタッフ カルメル会司祭 星野正道

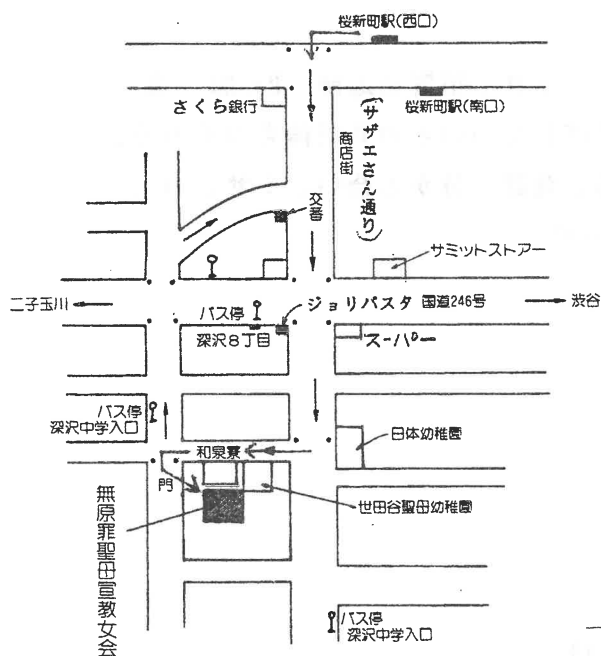
*費用 1000円

*内容 主日ミサ、講話、質問コーナー、個人面談等

*持って来るもの 聖書、ロザリオ、筆記用具、昼食等

*連絡先 158-0093 世田谷区上野毛2の14の25 男子カルメル修道会
星野正道神父 TEL03-3704-2171 申し込みの必要はありません。

*会場 無原罪聖母宣教女会修道院 158-0081 世田谷区深沢8の13の16
東急新玉川線桜新町下車 TEL03-3701-3295



〈地下鉄〉

□ 渋谷駅より
新玉川線(二子玉川園方面)
桜新町下車 徒歩12分

〈バス〉

□ 渋谷駅より 南口
18番のりば(新道経由)
二子玉川園行) いずれも
高津営業所行) 深沢8丁目下車
徒歩3分

〈バス〉

□ 東横線都立大駅より
成城学園駅行 深沢中学入口下車
徒歩1分

□ 目黒駅より 深沢中学入口下車
弦巻営業所行 徒歩1分

無原罪聖母宣教女会

〒158-0081
東京都世田谷区深沢8-13-16
☎ 03-3701-3295

1999年 カルメル会東京・上野毛聖テレジア修道院(黙想)
黙想会年間スケジュール

1. 信徒と奉献生活者のための個人指導黙想会

スタッフ 星野正道師、Br.原 造(以上カルメル会)

Sr.中川享子(ケベックカリタス会)、他

(1) 6月 3日(木) 4時から12日(土) 朝食

(2) 10月22日(金) 4時から31日(日) 朝食

全期間参加の方優先ですが二泊からの部分参加もお受けできると思います。

詳しくは申込用紙を御請求ください。

2. 奉献生活者のための黙想会

(1) 8月22日(日) 4時から31日(火) 朝食 山田裕於師

(2) 12月26日(日) 4時から翌年1月4日(火) 朝食 渡辺幹夫師

3. 聖書深読黙想会

(1) 1月30日(土) 夕食から31日(日) 16時30分 奥村一郎師

(2) 5月 8日(土) 夕食から 9日(日) " "

(3) 7月 3日(土) 夕食から 4日(日) " "

(4) 9月18日(土) 夕食から19日(日) " カルメル会士

(5) 12月 4日(土) 夕食から 5日(日) " 奥村一郎師

4. ウェンズデイ・リトリート スタッフ:星野正道師 Br.原 造

大聖年に向けての準備 「御父の愛に結ばれていのちの共同体をつくろう」

(音楽瞑想、講話、分かち合い、ミサ、etc.)

(1) 5月12日(水) 10時から16時

(2) 6月16日(水) "

(3) 7月14日(水) "

(4) 10月 6日(水) "

(5) 11月10日(水) "

5. ウィークエンド・リトリート スタッフ：カルメル会士

(最初の日の夕食をすませてから集合。どなたでも参加できます。)

- | | | | | | |
|-----|-----------|-------|--------|-----|--------|
| (1) | 5月28日(金) | 20時から | 30日(日) | 15時 | 未定 |
| (2) | 6月25日(金) | " | 27日(日) | " | 未定 |
| (3) | 12月17日(金) | 夕食から | 19日(日) | 昼食 | チブリアノ師 |

6. 特別企画黙想会

- (1) 5月18日(火) 夕食から 20日(木) 昼食(通い可) アロイジオ師

以上、1.から6.までの申込はカルメル会上野毛聖テレジア修道院へ。

皆さんが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)
〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
TEL. 03-5706-7355 お急ぎの時 03-3704-2171
FAX. 03-3704-1764

7. 青年黙想会(男女)

スタッフ：カルメル会士

- (1) 5月22日(土) 16時から 23日(日) 16時
希望者には5月21日(金) 20時から始まるプログラムもあります。
その場合は最初の日の夕食をすませてから集合してください。
- (2) 11月 6日(土) 16時から 7日(日) 16時
希望者には11月5日(金) 20時から始まるプログラムもあります。
その場合は最初の日の夕食をすませてから集合してください。

この青年黙想会のお問い合わせ、申込はハガキかFAXで下記まで。

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25カルメル会

青年黙想会担当神学生 FAX. 03-3704-1764

宇治カルメル会 聖テレジア修道院(黙想) 1999年案内

〒611-0002 宇治市木幡御蔵山39-12

TEL 0774-32-7016/Fax 32-7457

聖書深読黙想会

1月30日(土)夕食	～	31日(日)午後	大瀬高司神父担当
5月29日(土)夕食	～	30日(日)午後	中川博道神父担当
7月10日(土)夕食	～	11日(日)午後	奥村一郎神父担当
9月18日(土)夕食	～	19日(日)午後	中川博道神父担当
11月27日(土)夕食	～	28日(日)午後	奥村一郎神父担当

青年のための黙想

男性のため(高校生以上～30歳まで)

カルメル会士

6月12日(土) 5:00PM ～ 13日(日) 4:00PM

11月20日(土) 5:00PM ～ 21日(日) 4:00PM

女性のため(高校生以上)

カルメル黙想スタッフ

5月22日(土) 5:00PM ～ 23日(日) 4:00PM

11月13日(土) 5:00PM ～ 14日(日) 4:00PM

30代・40代 男性のための黙想 (ホットしよう会)

中川博道神父

6月19日(土) 5:00PM ～ 20日(日) 4:00PM

10月23日(土) 5:00PM ～ 24日(日) 4:00PM

半日の黙想 (一般)

中川博道神父

4月22日(木) 10:00AM ～ 4:00PM

7月1日(木) 10:00AM ～ 4:00PM

10月28日(木) 10:00AM ～ 4:00PM

幼いイエスの聖テレーズ 黙想 (一般)

伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

9月30日(木) 4:00PM ～ 10月1日(金) 3:00PM

3泊4日の黙想

(一般)

伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

7月23日(金) 5:00PM ～ 26日(月) 昼食

修道女の黙想

7月27日(火) 5:00PM ～ 8月5日朝食

アロイジオ神父

12月27日(月) 5:00PM ～ 1月5日朝食 (一般も可)

カルメル会士

カルメル会四旬節講話シリーズ

1999

大聖年紀元2000年を迎える準備

『父である神』

場所・カトリック上野毛教会聖堂 東急大井町線上野毛駅下車徒歩5分
世田谷区上野毛2の14の25 カルメル会修道院

日時・次の各日曜日午後2時講話開始、続いて主日ミサ

- 2月21日 (日) 九里 彰 (カルメル会司祭)
「貧しい神 —— モーリス・ズンデルの靈性 ——」
- 2月28日 (日) 石川 康輔 (サレジオ会司祭)
「父なる神への祈り —— 聖書、典礼文、聖人たちの言葉における ——」
- 3月 7日 (日) 山口 好信 (カルメル会司祭)
「臨床心理学からみた父性と神」
- 3月14日 (日) 奥村 一郎 (カルメル会司祭)
「父から御父へ」
- 3月21日 (日) ベトロ・アロジオ (カルメル会司祭)
「イエズス・キリストとわれらの御父への祈り」

主 催

男子カルメル修道会

青年ミサ 99 冬

主の平安！

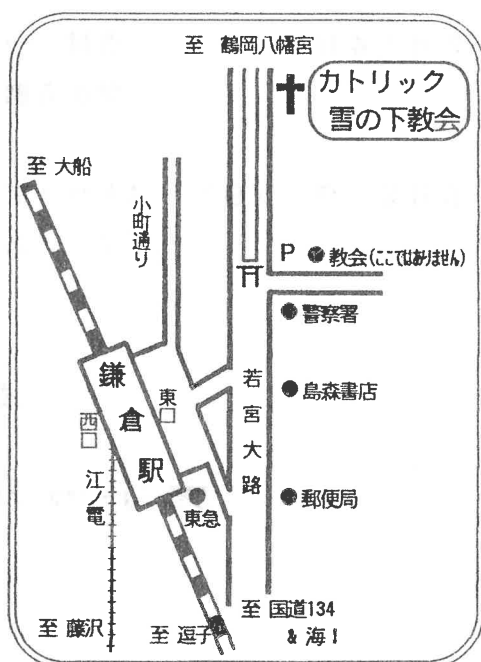
あけましておめでとうございます。寒い日が続いていますが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

ここ数年、東京・横浜・浦和などの教区でも青年を中心とした教会活動が盛んになっていますが、そんな人達を結び、そして新しく教会に目を向ける機会を持ってほしいという思いで、今回の集まりを企画しました。この集まりは、'98年2月に東京教区のカテドラル関口教会で100人以上集まって行われた「カトリック学生・青年の集い」を企画したメンバーを中心に、教区を越えて準備が進められています。

前回は『ミサ』について考え、今あるミサに創意工夫をこらしたミサを行いました。今回も「なるべく原点を見つめよう」ということで、『聖書』を中心としたプログラムにしたいと考えています。ほとんど教会に行ったことがない人でもその存在は知っている聖書、逆に取っつかれたように教会に行ってもほとんど知らない聖書、どちらにしても信仰の原点にあるイエス・キリスト伝えている聖書、そんな『聖書』を楽しく身近に感じていけたら、と思っています。また今回は「日韓学生交流会」が同じ時期に行なわれていて、そこに参加している韓国人学生もたくさん来てくれることが予想されますが、教区を越え、国境を越えた出会いと交わりを、「分け隔てない食卓」の象徴であるミサの中で、共に感謝をしていきたいと思っています。

観光がてら是非いらして下さい。一人でも多くの方の参加をお待ちしています。

- お 題：**「聖書100人に聞きました」
主 催：青年ミサ準備会
 (東京・横浜・浦和教区の青年有志)
日 時：1999年2月13日(土)
 13:00~18:00
場 所：カトリック鎌倉雪の下教会
会 費：300円(茶菓子代)
対 象：青年(20代前半くらいまで?、高校生も可)
連絡先：竹田 治比古 090-4000-4487
 村田 裕光 070-5367-5489
ミサ司式：鈴木 真 神父(横浜教区二俣川教会)



スタッフ…ハルヒコ・政仁・厚&淳史・ヒロ・あに・メグ・佐伯・ジュン・若菜・ミヨコ・ヨシエ・アヤ・ボブ・大河・あき・きよんあ 等々

断想（134）

1999 正月
（祈りの神学 10）

出会い ー格禅老師を訪ねてー

昨年九月始めから末期ガンという重症の床に伏しておられる鈴木格禅先生を先日ご自宅にお訪ねした。駒沢大学を定年退職されるまでは至って元気、立派な体格に豊かな人格もあらわな先生が、今は、ほとんど寝たまま、歩くことも不自由な見るも痛ましい姿であった。しかし、部屋に入ると、すっと起き上がり、小机を挟んで、しっかりと座禅の姿勢をとりながら、満面の笑顔をみせて迎えてくださった。さっそくの宗教談義は、現実に死を間近にする真剣さのうちにも、さすが、いつもの禅的ユーモアに欠けることはなかった。つい油にのってしまい、ふとみればいつのまにか一時間が過ぎていた。慌てて恐縮すると、「こんな嬉しい話をしていると時間も病気も忘れっちまいますがナ」と慰めてもらった。

先生とは、「禅とキリスト教懇談会」での三十年来の旧知のなか、毎年の会合でお会いし、肝胆相照らす仲でもあり、十字架の聖ヨハネ帰天四百周年記念（1991年）にあたって、東京上野毛教会で開催された四旬節講話で話していただいたこともある。久し振りにお聞きする話はことのほか心に沁みる言葉ばかりであった。

身を削る 病いも弥陀の 慈悲の縁

「まこと（誠）」というのは、「真事」と書いてよいと思います。「事切れる」とは「死ぬ事」です。

禅とは、「仏の本音」

有るも無いも、有無をいわさぬ仏の「ハタラキ（働き）」 この「ハタラキ」は、名詞じゃない！ 動詞ですわい！！

人は 正しいことを 余り簡単に言い過ぎる。

「祈り」とは「神に祈る」というより、「神が祈ってくださる」ことではありませんか？

いつか、英国で出会ったプロテスタント神学者の言葉が思い出される。「真の祈りの心においてのみ宗教の出会いが可能である」。宗教エゴの壁を越えて真実一路の道を祈りのうちに共に歩む喜びを、格禅先生との語らいのうちにも見出だす幸わいな一時であった。

奥村一郎

ヘンリ・ナーウエンの

「旅路の糧」 ⑨

小鳥のように傷つきやすいこと

生命は貴いものです。それは、ダイヤモンドのように変わらないからではなく、小鳥のように傷つきやすいからです。生命を愛するということは、絶えず保護や心遣いや手引きや支えを求めている生命の傷つきやすさを愛することなのです。生（命）と死は、傷つきやすさによってつながっています。生まれたばかりの子供と死にゆく老人は、共に生命の貴さを私たちに思い起こさせます。私たちがまだ力にあふれ、すべてが順調で、よい評判を得ている時、生命の貴さと傷つきやすさを忘れないようにしましょう。

(103)

孤独を見出すこと

すべての人間は、一人きりです。他のどの人も完全には私が感じるようには感ぜず、私が考えるようには考えず、私が行動するようには行動しません。私たち一人ひとりがユニークであり、一人きりであることは、私たちのユニークさの一面なのです。問題は、私たちが一人きりであることを孤立へと変えてしまうかどうか、それともそれが私たちを孤独へと導くのを許すかどうかということにあるでしょう。孤立は苦しいものですが、孤独には安らぎがあります。孤立は、私たちをがむしゃらに他者にしがみつかせますが、孤独は他者をそのユニークさにおいて尊敬するようにし、共同体を創り上げます。

私たちが、一人きりであることを孤独へと発展させ、孤立へと変えないことは、一生の課題でしょう。それは、誰と共にいるべきか、何を学ぶべきか、いかに祈るべきか、いつ助言を求めるべきかについて、自覚的選択を求めるのです。けれども賢い選択は、私たちの心が愛の内に成長することができる孤独を見出すための助けとなるでしょう。

(118)

『聖別奉獻と洗礼』（４）

松田 浩一 訳
(カルメル会神学生)

—教皇ヨハネ・パウロⅡ世のカテケージス『福音的勧告による聖別奉獻生活の本性と次元』（１９９４年１０月２６日）より（その２）—

呼びかけを受けて、福音的勧告に従う人は、第二バチカン公会議の教会憲章 NO. 44 に書かれているように、神のための基本的な愛の行為を行います。修道者の誓いは、愛の深さで測るべきです。聖霊に駆られてキリストに捧げられた愛は、キリストを通して御父に捧げられます。従って「人の心が、神を信じ愛するという、そして罪を悔やむという、聖霊によって動かされたかぎりにおいて」（Summa Theol. III, q. 66, a. 11）、修道誓願の聖別奉獻の価値は、東方でも西方でも火の洗礼（霊による洗礼）として考えられています。

わたしは、Redemptionis Donum で洗礼の考えについて説明しました。「修道誓願は、キリストの死に結ばれた新たな埋葬である。この新しさは愛と召命からなり、止むことのない回心によってなっているからである。この死の埋葬は、新しい生命のうちにキリストのように歩むために、キリストと共に葬られたペルソナに起因する。キリストのうちに十字架につけられたものは、洗礼の聖別と特別な聖別を意味する福音的勧告の誓願の両方の終末的土台を見いだすべきである。それは死と解放の同時性である。聖パウロは書いている。『あなた方自身、罪に対する死を考えなさい。』同時に彼は、この死を『罪からの解放』と呼んでいる。とりわけ聖なる洗礼という土台を通して、修道聖別奉獻はイエス・キリストのうちに神のための新しい生を構成している」（Redemptionis Donum No. 7）。

この新しい生は、キリストとのより親密な一致が、洗礼の発展のうちに、より完成へ向かっているがゆえに、より完全さを持ち、洗礼の恵みのより豊かな実を生じます（cf. 教会憲章 No. 44）。心を尽くして神を愛す

るという命令は、洗礼によって要求されていますが、福音的勧告を通して神に誓った愛によって、十全に保持されています。それは「特別な聖別」(Perfectae caritatis, No. 5)、「新しく特別なタイトルによって」(教会憲章 No. 44) 神聖な奉仕のためにより接近した聖別、洗礼の一部とか洗礼の論理的な帰結と考えることができない新しい聖別です。洗礼には福音的勧告のうちにある独身性や物質的所有の放棄という位置づけはありません。それに対して、修道聖別は、イエスが自発的な独身性について話したときに示したように (cf. マタイ 19 : 10 - 12)、だれにも与えられていない独自のカリスマを含んだ新しい生活への呼びかけを意味します。従って修道聖別は、神の卓越した業です。神が自由に選び、呼びかけ、洗礼に確かに結びつけられています。洗礼とは別である道を開いたのです。< つづく >



私たちと共におられる神

神が人と共に住み、人は神の民となる。

一月には世界各地で、キリスト者が共に集い、祈りや特別な集いを通して、自分たちが共有する信仰を祝います。特に「キリスト者一致祈祷週間」は、この目的で行われるものですが、今年のテーマは、ヨハネの黙示録から取られています。テーマの全文をご一緒に読んでみましょう。

「見よ、神の幕屋が人の間であって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってください。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のは過ぎ去ったからである。」
(ヨハネの黙示録 21・3～4)

今月のみ言葉は、私たちに一つのことを語りかけています。神の民に属する者でありたいなら、神が私たちの間に生きてくださる必要がある、と。

でも、どうすればそうできるでしょうか。天国で神様とお会いする時に受ける、尽きることのない喜びを、この地上にいる内から味わうためには、どうすればいいでしょうか。

それこそ、イエスが私たちに示してくださったことです。イエスが地上に来られたことの意味も、そこにあります。イエスは、ご自分と御父とが生きておられる愛を、私たちに与えてくださり、私たちも、その愛を生きることができるようになってくださいました。

ですから、私たちキリスト者は、今から既に、今月のみ言葉を生き、私たちの間に神様の存在を保つことができます。ただし、そのためには、教会の教父たちが言っているように、いくつかの条件があります。

聖バジリオによれば「神のみ旨に従って生きること」、聖ヨハネ・クリゾストモは「イエスが愛されたように愛すること」、テオドロスは「相互愛」、オリゲネスは「考えと感情を一つにすること。それによりもたらされる一致は、人々を一つに結び、そこには神の御子がおられる」と言っています。

イエスの教えの中には、私たちの間に神様が住まわれるための鍵を見出すことができます。「私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」(ヨハネ13・34)とイエスは言われました。神様が存在されるための鍵は「相互愛」です。「わたしたちが互いに愛し合うならば、神はわたしたちの内にとどまってくださいます」(ヨハネの手紙一4・12)。「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」とイエスは言われたからです。

「わたしの住まいは彼らと共にあり、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる」(エゼキエル書37・27)という、旧約のすべての契約が完全に実現する日は、それほど遠いわけでも、到達不可能でもありません。

神が人と共に住み、人は神の民となる。

イエスのうちには、これらすべてがもう実現しているからです。イエスは、歴史的に地上におられた時を超えて、今、相互愛の新しい^{おきて}掟を生きる人々の間に、存在し続けておられます。人は相互愛の掟を生きることにより、神の民になれるのです。

愛をもって神様の存在を証しするよう、今月のいのちの言葉は、特に私たちキリスト者に向かって、絶え間なく呼びかけています。「互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる」(ヨハネ13・35)とイエスは言われました。新しい掟を本当に生きるならば、人々の間には、イエスの存在がもたらされます。

何をするにしても、私たちはまず、このイエスの存在を確かなものにしましょう。イエスをご自分を通して、地上のすべての人々を兄弟姉妹にしてくださいました。この兄弟関係も、今イエスが私たちと共にいてくださるならば、意味があるのです。

神が人と共に住み、人は神の民となる。

私たちキリスト者は、属する教会は違っていても、「唯一の民」となっている姿を、世に示すよう特に招かれています。この民は、あらゆる種族・文化の人、大人、子供、病人、健康な人など、あらゆる人々から成る民であり、初期のキリスト者に対して言われていたことが、この民にも当てはまります。「彼らがどれほど愛し合っていることか。互いのために命を与える覚悟を持っている」と。

これこそ、すべての人が希望として待ち望んでいる「奇跡」でしょう。そして、キリスト者の一致が、目に見える形で完全に実現することを目指して、エキュメニズムを進めるために必要なことでしょう。これは、私たちが起こす「奇跡」、いえ、愛によって一つに結ばれているご自分の民の中に住まれ、世の運命を変えることのできる御方、一致に向かってすべての人を導いてくださる御方が、起こされる「奇跡」であると言えるでしょう。

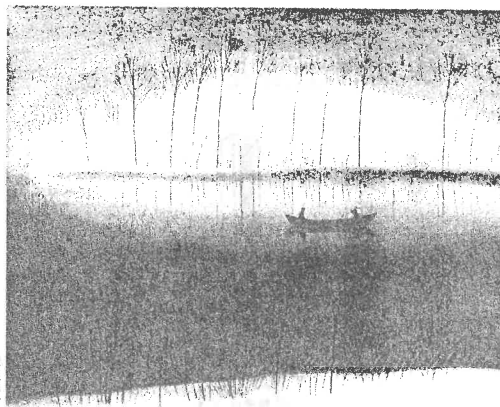
キアラ・ルービック

フォコラーレ本部

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-11-4

TEL. 03-5370-6424

FAX. 03-5370-3055



聖堂音楽会のテープを頒布します

昨年10月4日に開かれた「聖堂音楽会」の録音テープを当日お話し下さった星野神父様と、演奏して下さいました弦楽四重奏団の皆様のお許しを得て頒布致します。

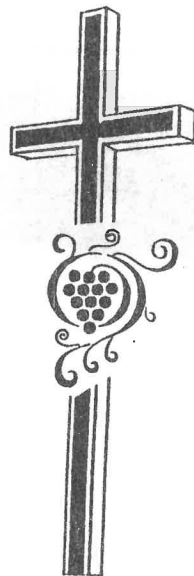
テープの実費を差し引いた純益は「上野毛教会五十周年記念募金」に献金致します。

皆様の黙想のため、またプレゼントとしても、どうぞ。

頒布価格 テープ1巻 1,000円

ご希望の方は教会事務室へお申し込み下さい。

カトリック上野毛教会 聖堂音楽会グループ



ポプラの幻想

煉瓦よりの敷石道を僕は歩いた。雨もよいの曇り日だった。銀杏の葉が空を蔽い、鼬川の水は満々と流れていた。霧のような雨の煙る、どんよりとした一日の昼下がりに、鬱蒼とした敷石道を、僕は歩いた。だが、空を蔽っているのはポプラではなく、銀杏だった。そのことがはっきりわかるのが、恵みだった。ポプラは高く聳えて、空を渡る風に揺れている。地上では鼬川が水を湛えて流れている。

(筆者は聖書深読・聖書と念禱の集い参加者)

諸所の企画についてのご紹介

“限りある資源を大切に”の環境アセスメントへの協力のため、読者の方々へご参考になればと思いき紹介、掲載しておりました研究会・行事等のお知らせを下記のように簡略させていただきます。どうかご理解いただきますように。各企画に興味のある方、時間のゆるす方は、各々の所へ詳細をお問い合わせの上、ご利用、ご参加下さい。

I ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会)

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 TEL&FAX, (03)3594-2247

キリスト者の生活を深めるための祈りの集い

テレーズの祈り

紀元2000に向かって.....

教会博士リジューの聖テレーズと共に祈る

II スズラン・ハウス

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。

詳細を知りたい方は、下記へ：

〒192-0041八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222 井口 貴志

III 風の家

指 導：井上 洋治 師 (東京教区司祭)

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『風』編集者

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-5-10-101

Tel・FAX 03-3205-6923 詳細はお電話でお尋ね下さい。

IV 生命山カトリック別院

場 所：〒865-0133熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7 TEL.0968-85-3100

A 黙想会：(a) 8月 1日 (日)～ 9日 (月) 8泊9日 } 開始：16時
(b) 8月16日 (月)～24日 (火) } 終了：朝食後

B 研修会：(a) 3月21日 (日)～22日 (月) 典礼といけ花
(b) 5月 2日 (日)～ 3日 (月) ミサと茶道

C：諸宗教対話活動 仏教者との交流

(a) 2月11日 (木) 熊本宗岳寺 (c) 6月27日 (日) 検討中

(b) 4月29日 (木) 上益城郡教栄寺

D：21世紀にむけて第4回 宗教者平和の祈りの集会

日時：10月3日 午後 場所：生命山カトリック別院

E：祈りの集い テーマー三位一体のイコンの観想

1月14日 (木) 4月8日 (木) 7月8日 (木) 11月11日 (木)

2月13日 (土) 5月13日 (木) 9月9日 (木) 12月9日 (木)

3月11日 (木) 6月10日 (木) 10月14日 (木)

このほか、個人、グループでも静修、黙想会などができます。

お申込みは生命山別院へ

V 瞑想の家 東光庵

指 導：ヨハネ・ウマンス師（神言会）

場 所：〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13 TEL 03-3336-0735

詳細問い合わせは電話で。

VI リーゼンフーバー神父による研究会

- ①キリスト教入門講座 日時：金曜日 18:45～20:30
場所：聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール

各会のテーマ

2/5 聖書と教会—信仰の基盤になる言葉

2/12 神の言葉—神との日常的な対話と黙想のしかた

2/19 結婚と独身—愛の道

2/26 信徒・司祭・修道者—社会と教会のために働く

- ②神学読書会 日 時：毎月第2・第4（第5）水曜日 18:30～

場 所：SJハウス第5会議室 要申込み、定期参加

- ③聖書研究会 日 時：毎月第1・第3水曜日 18:30～20:00

場 所：S.J.ハウス第5会議室

日 時：木曜日 12:40～13:25

場 所：上智大学7号館 316号研究室

- ④坐禅会 日 時：月曜日 17:20～20:10 木曜日 18:00～20:30

場 所：クルトゥルハイム1階左の部屋 3回坐り、間に講話があり。

関東接心：2月20日（土）8時30分～21日（日）17時

上石神井イエズス会黙想の家 5400円

- ⑤ミ サ：水曜日 17:10～18:00 場所：クルトゥムハイム1階右小聖堂

- ⑥黙 想：水曜日 18:00～18:30 場所：（同上） （同上）

- ⑦祈りの集い：下記土曜日 13:30～16:00 場 所：S.J.ハウス第5会議室

2月27日、3月13日

- ⑧黙想会：3月20日（土）10時～21日（日）15時 一泊 2400円程度

- ⑨アガペ会：

- ◎ 以上、詳細を知りたい方は下記へお問い合わせ下さい。

102-0094東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J. ハウス TEL.03-3238-5124

直通電話 03-3238-5124 5111(伝言)

VII 三位一体の聖体宣教女会 「祈りの家」

場 所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5 TEL.042-393-3181 FAX 042-393-2407

A. 黙想会

- ① “聖書で祈る”

指導：雨宮 慧師 対象：女性信徒

3月6日（土）5:30P.M.～7日（日）4:00P.M.

6月26日（土）5:30P.M.～27日（日）4:00P.M.

10月23日（土）5:30P.M.～24日（日）4:00P.M.

- ② 召命を考える一日の祈りの集い

1月15日（金）国祭日 10:00 A.M.～4:30 P.M.

指導司祭：星野正道師（カルメル会） 対象：女子青年

B年の黙想

- ① 指導：雨宮 慧師 対象：修道女
8月11日（水）5:30P.M.～19日（木）朝食まで
- ② 指導：星野正道師 対象：修道女
12月26日（日）5:30P.M.～2000年1月4日（火）朝食まで
- 以上申込みは期日5日前までをお願いします。

聖書に親しむ集い

西暦2千年にむけて

テーマ：御父、御子、聖霊との交わり

日時：1月～11月までの最終木曜日（7,8月はお休み）2:00P.M.～3:30P.M.

対象：一般信徒

指導：シスターマグダレナ・トレス・アルピ

キリスト教講座 毎週木曜日 10:00A.M.～11:30A.M.

十字架の使徒職 - 洗礼による祭司職に生き、司祭のために祈る集い -

対象：信徒、求導者

期日：第一グループ 第2金曜日（2:00P.M.～3:30P.M.）

期日：第二グループ 第1木曜日（2:00P.M.～3:00P.M.）

VII マリアの御心会（明泉会）

場所：〒160-0012 東京都新宿区南元町6-2 TEL.03-3351-0297

隔月・日曜日 10:00a.m～5:00p.m.

.3/14

②黙想と祈りの集い ……テゼの歌をうたいながら

隔月・日曜日 4:00～6:00p.m.

2/14

③霊操による祈りの集い

指導：長町 裕司師（イエズス会）

第3土曜日 6:00～8:00p.m.

II ①聖書会 …詩編を読む…

毎月第1月曜日 10:00～12:00a.m.

②聖書通読講座

木曜日 6:30～8:30pm.

IX 聖心会黙想の家

場所：〒410-1126 静岡県裾野市桃園 198 Tel&Fax.0559-92-2120

A 祈りの集い（問合せ・申込は聖心黙想の家まで電話/FAで！）

②6月4日（金）泊まり～6日（日）午後3時まで

「エウカリスティア」・・Br. ジュリアノM.O.P.P.

③12月10（金）夕食～11日（土）午後5時まで。星野正道師（カルメル会）

午後のひととき、静かに過ごしてみませんか？

時： 毎月 第2土曜日 午後4時～午後5時

場所： 不二聖心のキャンパスにあるどこかの聖堂（四箇所の一つ）
（当日黙想の家の玄関に表示します。）

内容： 沈黙の祈り

(2/13, 3/13, 4/3 (聖土曜日)、5/8, 6/12, 7/10, 9/11, 10/9, 11/13, 12/11)

B 黙想会

☆ 8日間または6日間の黙想会

初日の夕食（6時）～最終日の朝食まで。2～3日だけの参加も可能。

① 3月22日（月）～31日（水） ヘルパー司祭、シスター数名

② 4月28日（水）～5月5日（水） //

③ 7月1日（木）～10日（土） //

④ 8月29日（日）～9月7日（火） //

☆ 婦人の黙想会

① 5月10日（月）午後2時～11日（火）午後3時まで

② 10月4日（月）午後2時～5日（火）午後3時まで、

☆ 家族連れの黙想会 ベビーシッターも同時募集！

① 6月19日（土）午後6時～20日（日）午後3時まで

② 10月2日（土）午後6時～3日（日）午後3時まで

C 一日黙想会 講師：カルメル会司祭星野正道

場所：聖心会若宮共同体

日時：3/2, 5/25, 9/7, 11/9 (以上全て火曜日)

上記Bの☆マークの黙想会およびC一日黙想会のお問い合わせ・お申し込みは：

165-0033東京都中野区若宮3-9-4 若宮共同体 TEL.03-3337-3291

聖心会シスター交野（かたの）

X カトリック内観研究会

代 表：藤原直達（大阪教区司祭）

〒111-0053 東京都台東区浅草橋 5-10-5 カトリック浅草教会内

TEL&FAX 03-3862-8876

カトリック内観瞑想は沈黙と孤独の中で、自分の身近な人に対する「していただいた事（愛されてきた体験）」「お返しした事（感謝を表す）」「迷惑かけた事（我執）」を年代順に調べる事により、自分の姿を自己洞察し、一方、神の無償の愛を体感します。それは自分の中にある日本的霊性の発見ともなります。毎日、8～10回の面会とミサがあります。

予約：手紙・FAX(電話を避け)申し込み下さい。それぞれの事情に応じて相談しますので、まずご連絡下さい。

費用：会場によって費用が変わってきます。宿泊代・食事代・面接同行者の交通費、それに同行者に少しを喜捨して頂きます。

持ち物：楽な着物、着替え、洗面具など。

会場場所：申し込み後、地図をお送りします。

一週間どうしてもできない場合：特例としてその後も続けるという条件で、部分的申し込みについて相談します。

予 定 表

D 2/9 ~16	八日間	茅ヶ崎	J 5/29 ~6/5	八日間	茅ヶ崎
E 3/19~22	四日間	〃	K 6/19 ~26	八日間	〃
F 3/24~31	八日間	千葉・白子	L 7/3~10	八日間	〃
G 4/10~17	八日間	茅ヶ崎	M 7/18 ~24	七日間	奈良市
H 4/28~5/5	八日間	千葉・白子	N 7/31 ~8/7	八日間	茅ヶ崎
I 5/20~23	四日間	奈良市	O 8/18 ~25	八日間	千葉・白子

また、「イエスと日本人 -日本での文化内開化の試論-」の公開講座を朝日カルチャーセンターでもなさっております。

日時：1月25日、2月8日・22日、3月8日 全4回 月曜日10:00 ~12:00

受講料：会員 10,000円 一般： 11,200円

場所：新宿住友ビル48階 朝日カルチャーセンター（受付は4階）

なお、詳細は上記にお問い合わせください。

XI コングレガシオン・ド・ノートルダム

〒182--0034 調布市下石原3-55 TEL.0424-82-8056 (夜間)0424-82-2012)



上野毛、宇治、大分、

カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

聖テレジア修道院 (黙想) は、カルメルの靈性を体験し深めたい方のためのものであります。黙想会、研修会、練成会などに御利用下さい。個人でも団体でも御利用頂けますが、必ず事前に御連絡の上、お申し込み下さい。なお、詳しい御問い合わせは、下記へお願いいたします。

※☎158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

☎ : 03-5706-7355

FAX : 03-3704-1764

東急、大井町線「上野毛駅」下車 徒歩7分

かみのげ

※☎611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山39-12

☎ : 0774-32-7016

FAX : 0774-32-7457

京都駅よりJR奈良線：「六地藏駅」下車 徒歩15分

ろくじぞう

おくらやま

京阪バス：六地藏の町並バス停より御蔵山行きに乗り

「西住宅バス停」下車 徒歩5分

※☎870-1152

大分市上宗方1800-3

☎・FAX 共：0975-41-4012

大分駅～バスで18分、大分川を渡って明礮橋を右折、

あけがわらばし

男子跣足カルメル修道会

お 願 い

投稿下さるときには、だいたい、次のようにしていただけますと幸いです。

1. 締 切 り 毎月10日
2. ①各グループの 目的 或いは 主旨
②月間 或いは 年間予定：研修、黙想など具体的計画
③随想、こぼれ話など。「断想」「陽あたり」とか小題をつけて
④その他 自由ニュースをお送りください。
3. ワープロ。 なお、手書きの場合は早目にお送り下さい。
4. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただく場合があります。お赦してください。
5. 寄稿連絡は星野正道神父宛てにおねがいします。

・ニュース（霊性センターニュース）をご希望の方は 中尾豊子宛 に郵送御希望の月数分の220円切手又は現金を送って下さい。（これには封筒代等が含まれています。）

中尾 豊子 〒224-0041 神奈川県横浜市都筑区仲町台 3-15-5

☎045-941-3566

あ と が き

「霊性センターニュース」も奥村神父様の時代以来、常に変わらぬご理解とご支援をいただき心から感謝申し上げます。今後もこの小さな種が皆様の暖かなご協力のもとに、すこやかに成長していくようお祈りください。

なお、“一口一円”の呼びかけで始まった献金も、神様の御手の中で大きな助け手、働き手となってきています。ご協力、本当にありがとうございます。

喜びと悲しみ、日々の小さなことがらを通してイエス様が働きかけ、共に生きて下さいますように、お祈りいたします。

カルメル会霊性センター

星 野 正 道